

第4回 <まち探検隊>

- ・ 日時 00年11月25日
- ・ 参加者 赤尾、加藤、近藤、酒井、隅野夫妻、妹尾、中尾、松下、村上
- ・ 主な目的 北野天満宮から西陣一带の歴史、風習、食文化、伝統行事、町の佇まいなど
- ・ 参考資料
 - 4 - 1 コース図 [click](#)
 - 4 - 2 CVVメンバー妹尾氏の「京都の生活文化」[click](#)
 - 4 - 3 - 1 古地図「京都北野周辺」 4 - 3 - 2 「平安京条坊図」[click](#)
 - 4 - 4 - 1 「七本松通り」 4 - 4 - 2 「御前通り」 4 - 4 - 3 「天神様」などの事 [click](#)

主な議題

「北野天満宮」: たまたま、月例祭で露店が一杯出ていた。
古着屋、骨董屋、...

<むむっ、この賑わいは何なのだ！>

<天神さんは、道真公の怨霊を封じ込めたのだ>

<露店で怨霊を売っている...>

勝手な事を言い合って通過する。

どうやら、必要なものを買うという

本来のショッピングの雰囲気は無い。

大昔からずーっと続いて来、これからも

ずーっと続いていくのであろう。

「上七軒界限」: 天神さんの裏門を右に曲がると、

京都で一番古い花街、上七軒である。基本的には
東西南北に道が走る京都で、ここは北西から南東へ

<ナナメ>に走る。道端がレンガ積のように一軒間口毎に
1mほど下がりながら<ナナメ>に走る。まず道ありき。
それから門口が出来たらしいのだが...

それはそれとして、さすが伝統の上七軒、両側に並ぶ
御茶屋、センスのよい門口、表は車と単車の騒音だけど
店の中に入ると、ずーっと奥に座敷があってほの暗い
座敷の明かり障子を開けると手水鉢と灯笼に四方竹、
下地に木賊か羊歯を植えた<坪庭>、自然の静寂がある。

妹尾さんから門口税の話。

京都は門口の幅で税金がかかった。一軒分の間口で
露地(ろうじ)を挟んで5~6軒。税金が少なくて
済むという庶民の知恵。同時に向こう三軒両隣、最小
単位のコミュニケーションが出来上がる。

京の露地



天神さんの露店



道路の縁石が直線ではない？！



上七軒の佇まい



「お寺」：界限には、勿論古いお寺も沢山ある。
まずは国宝の千本釈迦堂。1227年建立。
何気なく<まちの中に780年>。
出入り自由である。12月7・8日の
厄除け大根焚きの用意が整っていた。

紋屋町を下がる。着物の紋織り専門の
「紋工所」の看板が見える。
技術の伝承で織成会館が出来ている。

妹尾さんが遊んだ本隆寺へ。
子どもがボール遊びをしており、彼が昔
通った書道教室が今もあった。1600年建立
以来、まちの生活に溶け込んで何も変わらない。
まちの人々がそのように残し続けている。

千本釈迦堂



本隆寺



「西陣織」:



期待していたほどではなかったが、何箇所かで織機の音が
聞こえた。覗いてみると、10台ほどあるうちの2台程度が
動いていた。着物離れ、不景気などといったアゲストウインド
に負けずに、続いていかれますようにと思わずにはいられなかつ
た。ちなみに、妹尾氏によると昭和50年頃までは織屋や糸屋
が繁盛していたとか。

山名宗全邸跡

「西陣」：応仁の乱の西軍大将山名宗全の屋敷跡、即ち西陣跡である。
1466年から10年続いたこの戦乱から、1568年の信長入京
までが、いわゆる戦国時代とか。源頼朝、足利尊氏、織田信長、
などと比べると知名度は低いかもしれないが、大きく時代を
動かした人物ではある。

堀川今出川角の「鶴屋吉信」の前で動きが止まってしまった。
二階で、お抹茶とお饅頭。ホロ苦さとやさしい甘味が疲れを
癒す。

鶴屋吉信にて



「清明神社」：あと一息と頑張って、陰陽師 安部清明を祭る清明神社へ。<風水>土木のプロデューサー。人々が自然と隣り合わせに生きていた時代、自然の恐ろしさを知り尽くし、安全な都市づくりを目指した。今日、科学の進歩で自然を多少克服し、学問が専門化して総合プロデューサー不在か？看板があり、氏子一同<清明住居跡に住んでいる人々39軒>が、3億円を拠出して神社を修復した由。このあたりにも、自分たちが住んでいる町に誇りを持ち続けている人々がいるのだ。

清明神社



「一条戻り橋」:

中世説話文学の宝庫のような場所である。父の死に目に会えなかった息子が、橋の上で葬列と出会い、一時蘇生した話。渡辺綱が美女と出会うが、実は鬼であり、片腕を切り落とした話。建礼門院がお産のとき、母の二位殿がここで橋占いをした話、安部清明が手下の式神を隠した話、戦時中、出征兵士をここで見送り無事の帰還を祈った話など。

一条戻り橋



「市電の橋台あと」:

戻り橋のすぐ下流に昔市電が走っていたとき堀川を斜めに渡る橋の橋台のあとが残っていた。レンガ積みの橋台が川の護岸の一部になって残っていたが、これこそ、知る人ぞ知る！あと何年ぐらいこの橋台あとや市電の記憶が残り続けるのか？堀川も下水道整備のおかげでごらんの通り、すっかり水量もなくなり、川の面影がない！！市電に乗ったとき、川を見るのが楽しみだったという妹尾さん。これで良いのかなあー？残す？埋める？どっち？

市電橋台あと



この後、目の前の焼き鳥屋で一献傾けてご機嫌で帰る。

見つけたキーワード:

怨霊 コミュニティ 格子(透明で不透明)